

品川区いじめ根絶協議会（第2回）

議事録要旨

1 日時

令和6年1月29日（月）午後1時から午後3時15分まで

2 会場

鈴ヶ森中学校

3 内容

（1）品川区教育委員会教育長挨拶

（2）委員紹介

（3）教育委員会の取組について

（4）総務課の取組について

（5）授業見学（5時間目）13:35～14:25 第7学年 市民科

第8学年 市民科

（6）報告 「学校におけるいじめ防止の取組について」

鈴ヶ森中学校 校長 滝沢 二三雄

副校長 大山 剛史

（7）意見交換会 14:40～15:10（30分）

・意見交換会の進め方についての確認

・意見の交換

・各グループからの報告

・意見交換のまとめ

（8）終わりに

（9）閉会

4 出席者

委員一覧の通り

5 発言要旨

（1）教育委員会の取組について（斎藤統括指導主事）

品川区いじめ防止対策推進基本方針の改訂について説明

品川区いじめ防止対策推進条例の一部改正、追加修正について説明

（2）総務課の取組について（総務課長）

区長部局によるいじめ相談対応について説明

（3）授業見学について説明（大山副校長）

授業見学にさきがけ、本授業のねらい、展開について説明

(4)「学校におけるいじめ防止の取組について」の報告（滝沢校長）

学校としての指針を説明

(5)「学校におけるいじめ防止の取組について」の報告（大山副校長）

道徳的な教育、特に教員の指導力の向上に、校内研修で2年間にわたり取り組む

生徒会を中心としたいじめのない学校にするための五つ星の策定

(6)各グループからの報告

★第1グループ発表内容

(本授業について)

- ・非常に重たいテーマだが、各班、意見合意形成ができていた。
- ・8年生は2年間取り組んできた成果が出ている。
- ・担任の先生の取り組みにより、中途半端に終わっているところもあり、これからまだ継続した指導が必要なのではないか。

(いじめ問題について)

- ・いじめの窓口とともに、人権の相談窓口、警察の窓口など、様々なところが情報を共有して連携を取っていくのが望ましい。
- ・デートDVについて話をしてほしい。子どもたち自身、そして保護者や周りが気づくことが大切であり、育てるということが大事である。

★第2グループ発表内容

(本授業について)

- ・子どもたちが前向き、明るくさわやかな感じで良かった。
- ・ここで終わりではなく、過程が大事。
- ・いじめの定義がとても広く、厳しくすればするほど隠しながらないか、現場は大丈夫なのだろうかという杞憂があったが、様子を見ると大丈夫そうな感じだった。
- ・子どもたちの話し合いが、本当に自分ごととして迫っていているのか、取り込めているのかということがこれからの課題。(PTAの立場から)

(いじめ問題について)

- ・「いじめがない」「根絶」することに対する違和感がある。(警察の立場から)
- ・いじめの本質をしっかりと捉え、教えることが必要。人権問題につながる大事なこと。命に関わることを、先ず伝えなければならない。
いじめ、人権問題は水や空気を奪われるのと同じ。まずは先生がその意識を持ち、繰り返し、人権意識を高めるという取り組みをしていけば、自分ごととして捉えることが可能になっていくのではないか。

★第3グループ発表内容

(本授業について)

- ・子供たちが、いじめについて真剣に考えている様子が見られた。
- ・深め方は、各学年学級によって、子どもたち一人一人の置かれている環境、資質、能力によって異なり、難しかったかなと感じる。
- ・いじめというものを、グループでのいじめと捉えている班が多く、一人一人が流されない意思を持つなど、自分の気持ちの部分、精神的な部分を捉えている子どもが多かったように感

じる。

- ・いじめという言葉とは違う「いじり」という表現が子どもたちの中で非常に多くあった。
- ・ピンクストラップの取り組み、五つ星の取り組みなど具体的な行動の取り組みについて、とても良いという話がいくつか出た。

(いじめ問題について)

- ・いじめの情報をキャッチするという部分で、学校はどのようにキャッチしているのかを説明。今後、いじめ予防プログラムを用いた取り組みを行ううえで、教員が研修を受けて、各学校で授業を展開していくことが必要。

★第4 グループ発表内容

(本授業について)

- ・子どもたちが自分たちで課題解決をするための話し合いという形で、意見を積極的に出し合い進めていた。この取り組みとして、授業の定義をもう少し明確にしてもよかったのではないかと、また、意見を一つにまとめる必要性が本当にあったのか。
- ・いじめの定義自体が少し難しく、子どもたちに具体的な事例として浮かばなかった部分もあったのではないかと。

(いじめ問題について)

- ・例えば具体的に何をすればコミュニケーション力が向上するのかといったようなことを取り上げても、今後は良いのではないかと。
- ・一方、一人一人が意見を出することができる機会が与えられたと考えれば、大変素晴らしいことであり、こういった取り組みが定期的に行われることによって、子どもたちが自分自身を内省する時間となる。そこに大きな意味があるのではないかと。
- ・またこのように道徳的な価値を子どもたちに認識させ、心を育む時間を作っていくこと。こういったことを計画的に進めていくことが大切なのではないかと。

(7) まとめ(明石先生)

1. 生徒たちがよく議論をしており、合意形成がよくなされていた。
環境づくり、雰囲気をつくる取り組みの中で、生徒会の存在が大きい。
個人個人も大事だけれども、生徒会全体でいじめの問題を考えていこうという姿勢に、いじめられた子どもはほっとする。
2. 総務課の窓口など、相談先のバイパスをたくさん用意してほしい。
3. コロナ禍3年、明けた1年、非行問題の在り方が変わった。暴力的事例が増えているという報告もあるなか、校外でもいじめが生じかねない。
中学生において、異性間の行動からトラブルに発展することもあり、どのように生徒を指導していくのが課題となっている。
子どもが変わってきているということ、情報交換をし、よく見る必要がある。